

常設委員会報告

総務委員会報告 委員長 鈴木 太

平成27年度 総務委員会は、下記の9名にて構成されています。

委員長：鈴木 太(株東海環境エンジニア)
副委員長：加藤 信治(株松原工事事務所)
委員：西部 雅英(株ヨコタテック)
委員：広瀬 義純(株アサノ大成基礎エンジニアリング)
委員：真鍋 保幸(東海地質工学株)
委員：天木 亨(興亜開発株)
委員：田中 一浩(株フジヤマ)
委員：山本 貢司(東洋地研株)
委員：土屋 靖司(株富士和)

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動としては、

- イ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
 - ・独占禁止法遵守講習会の開催
- ロ)新入会員の入会促進運動
- ハ)地質調査技士に関すること
 - ・地質調査技士等、資格検定試験の実施
 - ・地質調査技士受験対象者講習会の実施
 - ・登録更新講習会の実施
 - ・地質情報管理士資格検定試験
 - ・その他地質調査技士に関すること
- ニ)四支部協議会の実施
- ホ)会員相互の親睦会の実施
- ヘ)その他協会運営に関すること

以下に主な活動報告を致します。

●親睦ボーリング大会

平成27年5月22日 星ヶ丘ボウル
参加者 81名(23社)
優勝者
団体 玉野総合コンサルタント(株)
個人男子 玉野総合コンサルタント(株) 近藤 拓巳
個人女子 中部土質試験組合 鈴木 和枝



地質調査技士受験対象講習会風景

●地質調査技士受験者対象講習会

平成27年6月27日 ウイルあいち
受講者 26名

●第50回地質調査技士資格検定試験

平成27年7月10日 愛知県青年会館

部門	受験者	合格者
現場調査	13	6
現場技術・管理	66	18
土壌・地下水汚染	7	2
応用地形判読士	13	6
地質情報管理士	18	9
計	117	41

●平成27年度コンプライアンス講習会

平成27年10月27日 メルパルク名古屋
受講者 230名(五協会合同)
講師
公正取引委員会事務局 中部事務所
経済取引指導官 齋藤 誠誉
経済産業省 中部経済産業局
消費税転嫁対策調査専門職員 伊藤 淳一
社会保険労務士・心理カウンセラー 山本 道子

●親睦ゴルフ大会

平成27年11月6日 富士カントリー可児クラブ
参加者 18名(17社)
優勝者 富士開発(株) 阿部 暢夫

●第32回地質調査技士登録更新講習会

平成27年12月11日 名古屋国際会議場
受講者 184名

●新春賀詞交換会・麻雀大会

平成28年1月16日 麻雀「琥珀」
参加者 28名(22社)
優勝者 青葉工業(株) 武藤 英教

●四支部協議会

平成28年3月17日

中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会員の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

最後に、委員会活動に対してご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



研修委員会報告

委員長 大久保 卓

平成27年度の研修委員会のメンバーは以下の10名で構成されています。

委員長：大久保 卓(株大和地質)
 副委員長：阿部 暢夫(富士開発株)
 委員：中村 正和(株日さく)
 委員：都築 孝之(日本物理探鑛株)
 委員：佐藤 雅人(株テイビー)
 委員：中山 宏史(宥総合開発調査)
 委員：高橋 将也(村木鑿泉探鉱株)
 委員：鈴木 正之(株東日)
 委員：中野 強一郎(株中野地質)
 委員：大出 彰宏(日特建設株)

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

- ①協会の技術向上のための技術研修会・講習会の開催
 - ・現場見学会による研修会の開催(隔年実施)
 - ・技術講習会としての新春技術者懇談会の開催
- ②協会が地盤工学会と連携して進めている調査研究委員会への支援

以下に主な活動について報告します。

●ボーリングマシン特別教育講習会の準備計画

ボーリングマシンの特別講習会開催に向けて、今年度は協会員にアンケート調査を実施し、受講希望参加者の動向を調査した。

前回のボーリングマシン特別講習会は平成23年であり、前回の講習会から5年経過しているため、多数の参加希望が得られた。

実施時期は業務の閑散期である5月に行なうことを決定した。

●平成27年度新春技術者懇談会

開催日時：平成28年1月29日(金)

会場：ホテル名古屋ガーデンパレス

主催：中部地質調査業協会

共催：中部土質試験協同組合

演題：「火山噴火の多様性と防災」

講師：名古屋大学大学院 環境学研究科
 教授 山岡 耕春先生

参加者：46名

講演内容は、火山防災に関するもので、火山噴火の基本的な仕組み、多様な火山現象とその原因の解説でした。近年全国的に火山活動が活発になり日本が火山国

であることを再認識させられています。今回の講演は皆様の関心度の高い火山防災を題材としたものであり、講演後の質疑も活発に行われました。



写真-1 新春技術者懇談会

講演後の懇親会も多数の方の参加により、和やかな雰囲気の中での開催となりましたが、そこでも山岡先生を囲んで多くの質疑応答がなされたようです。



写真-2 新春技術者懇親会

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



広報委員会報告

委員長 西岡 吉彦

平成27年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の10名のメンバーで構成されています。

委員長：西岡 吉彦(川崎地質株)
副委員長：松浦 好樹(株ジーベック)
委員：森 理(協和地研株)
委員：妹尾 俊美(株シマダ技術コンサルタント)
委員：佐藤 安英(株中部ウェルポーリング)
委員：後藤 邦夫(株テイコク)
委員：富田 義裕(株東建ジオテック)
委員：狩野 行宏(株中日本コンサルタント)
委員：服部 剛明(服部エンジニア株)
委員：堀内 律輝(復建調査設計株)

(委員の順番は会社名頭文字のあいうえお順)

本年度の広報委員会活動方針は、第53回通常総会で承認されました以下の7項目です。

- (イ)発注者に対する広報活動
- (ロ)中部地方整備局との意見交換会の実施
- (ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
- (ニ)全地連積算委員との連携
- (ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
- (ヘ)改訂版積算資料の広報宣伝活動
- (ト)広報活動での「土と岩」の配布

以下に、主な活動について報告します。

●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会社のご協力を頂き、7班編成で7月に実施しました。

訪問先は、中部協会の広報委員会が愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人を担当し、愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会が各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・協会誌「土と岩」63号
- ・「技術フォーラム2015」名古屋 開催案内と招待状
- ・防災協定書写し
- ・全地連PR誌：日本ってどんな国

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した63号は、2011年紀伊半島豪雨、2012年九州北部豪雨、2013年伊豆半島大島豪雨、2014年広島豪雨と近年毎年のように発生する豪雨災害に着目し「豪雨と災害」をテーマに特集を企画しました。各分野の専門の方々また会員各社の技術者に執筆して頂き、読み応えのある内容になっております。また、同号には「平成26年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」、リニア新幹線の本格的な建設が開始されることに向けて特別寄稿として「リニア・鉄道館の概要」等盛りだくさんの内容を掲載しています。多くの方々協会誌のできばえの高さに感心され、技術資料としても価値があるとお声を頂き、各部署の皆様方に回覧するとのお約束もしてもらいました。

「平成26年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」は平成27年2月6日に国土交通省中部地方整備局と行ったもので、その内容についても報告させていただきます。

広報活動の際に各発注者へ配布しました全地連PR誌「日本ってどんな国」は、私たちが暮らす日本の地盤を知ることの大切さを平易にまとめた小冊子で、今回は少し趣向を変え、「身近な石材・美しい石材」をテーマに、身近に使われている美しい石材の世界をご案内しています。

地質調査の重要性については、各発注者の理解は得られていると思います。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高いと思われ、突然の訪問にも拘わらず各発注者には快く対応して頂き、紙面をお借りしここに深く感謝申し上げます。

●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「平成27年度中部地区に於ける地質調査業に関する意見交換会」は、平成28年2月23日に桜華会館にて開催され、その模様については本誌に記載されています。

●委員会の取り組み

広報委員会は、今後ますます中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。

技術委員会報告

委員長 法安 章二

平成27年度は、全地連「技術フォーラム2015」名古屋に関連する技術発表小委員会・拡大技術委員会への出席、原稿審査、司会や学会行事への共催、協力などを主な活動としてきました。

今年度のメンバーは、以下の9名です。

委員長：法安 章二(玉野総合コンサルタント(株))
 副委員長：米田 茂夫(株)ダイヤコンサルタント)
 委員：浅川 実(日本エルダルト(株))
 委員：片岡 泰(株)キンキ地質センター)
 委員：草野 善彦(株)岐阜卓ソイルコンサルタント)
 委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))
 委員：高橋 幸伸(東海ジオテック(株))
 委員：土屋 国彦(土屋産業(株))
 委員：由井 恒彦(松阪鑿泉(株))

主な技術委員会活動は、以下の通りです。

- (イ) 全地連「技術フォーラム2015」名古屋の技術発表小委員会出席(H27.4.21)、原稿審査(H27.6.10~11)
- (ロ) 地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部の諸行事への共催・事業協力、「地盤調査ボーリング作業・物理探査見学会」の開催(H27.5.15)
- (ハ) 全地連が主催する講習会の開催支援
- (ニ) 地質調査関連講習会への講師派遣

●地盤調査ボーリング作業・物理探査見学会

地盤工学会中部支部主催の「地盤力学・工学講習会(現場編)地盤調査ボーリング作業・物理探査～室内土質試験見学会」に中部土質試験協同組合と共催の形で毎年実施しております。

技術委員会は、ボーリングマシンを使用しての現場作業、原位置試験等の実作業や物理探査作業を見学する場を提供しています。また、ボーリングツールについても各種展示しました。



写真-1 ボーリングツールの展示と説明

参加者は103名で、地質調査会社、コンサルタント会社、建設会社、学生などで、協会員各社からの参加は24社44名でした。



写真-2 ボーリング作業の見学

●「技術フォーラム2015」名古屋 (H27.9.17~18)

当技術委員会では、まず技術発表小委員会にて、発表セッションの区分を、全地連情報化委員会と共に実施しております。原稿審査に当たっては、技術委員の他、理事会社の技術者にも応援を頂き、2日間で165編の査読を行いました。フォーラム当日は、各セッションの司会などを行い、優秀技術発表者賞の審査も担当しました。

拡大技術委員会は、フォーラムの前日に開催されました。全地連からの活動報告、各地区協会からの技術委員会活動や全地連への要望に対し、意見交換がなされました。各地区協会とも委員会活動を通して若手技術者の育成・教育を含めた技術の継承や資格制度の活用、地質リスクなどに対する積極的な取り組みが窺えました。

このほか、地盤工学会中部支部および日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催、並びに後援等の協力については、以下の通りです。

●日本応用地質学会中部支部

- ・平成27年度研究発表会(H27.9.17)

●地盤工学会中部支部

- ・第24回調査・設計・施工技術報告会(H.27.6.19)
- ・第27回中部地盤工学シンポジウム(H27.8.7)
- ・「想定外」豪雨による地盤災害への対応を考える調査研究委員会」報告の共催(H27.7.31)
- ・「南海トラフ巨大地震に対する市民のための防災・減災シンポジウム」の共催(H27.10.5, 10.30)

●その他

- ・「中部地方巨大災害タスクフォース」委員派遣継続
- ・地質リスクキーマンの活動(全地連)



防災委員会報告

委員長 武藤 英教

今年度のメンバーは以下の7名です。

- 委員長：武藤 英教(青葉工業株)
- 副委員長：澤田 哲郎(株朝日土質設計コンサルタント)
- 委員：澤田 茂(株興栄コンサルタント)
- 委員：小川 晴彦(東海テクノス株)
- 委員：黒田 了介(株グランドリサーチ)
- 委員：齋 秀(株東海建設コンサルタント)
- 委員：岡野 直次(株ランドテクト)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです

- ①中部地整との災害協定に基づく、事業者リストの更新作業
- ②「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」の構成員として継続会議に出席参加
- ③震度5強の地震を想定した防災訓練の企画・実施

●事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定によれば、「会員の連絡体制及び、会員が有する技術者・資機材等の員数について、毎年6月末までに提出すること」となっており、災害時に正確に情報伝達ができるように、登録リストの更新整備を確実に実施することが防災委員会の重要な役割だと考えております。今年度は、登録協会員58社、本店・支店・営業所を合わせて計95社が登録されました。また登録派遣人員数は494名と3名増加しております。

●「地質フォーラム2015名古屋」への展示物担当

東海3県地質図・濃尾平野東西南北断面図・H23.12号台風想定外豪雨活動写真掲載・機関紙「土と岩」の無料配布・静岡茶の振舞いコーナーを企画しました。

●「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」への参加

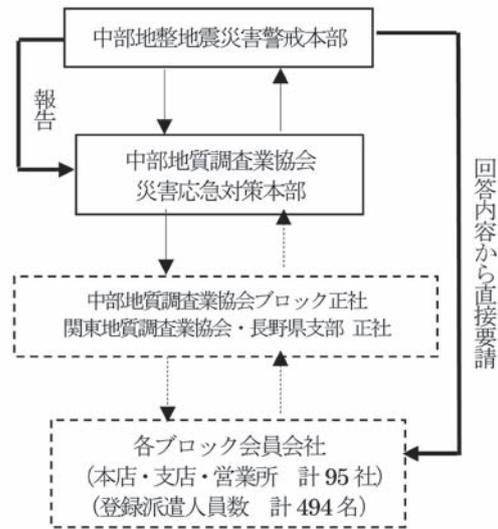
東日本大震災を踏まえ、中部圏の国、地方公共団体、学識経験者、地元経済界が幅広く連携し、南海トラフ巨大地震に対して総合的かつ広域的視点から一体となって取り組む協議会(構成員:117協議団体)が結成されており、当協会の代表として委員が出席しています。詳細内容については中部地整のホームページをご覧ください。

●「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との防災協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練を行っています。本年度は実施日(H27.9.29)をブロック長にだけ事前連絡し、昨年同様「メール」にて情報伝達訓練を行いました。配下協会員に抜き打ち的に

行ったにもかかわらず、回答率は登録業者数で82%(昨年は87%)となっており、比較的スムーズに地整側に報告できる体制が整っていると判断されました。

訓練後のブロック長へのアンケートでは、今後の訓練のあり方に対するの貴重なご意見を多数いただき、この場を借りて御礼申し上げます。



(H27.9.29 防災訓練実施状況)

以上が活動報告です。

中部地整と災害協定を締結してから19年目に入り来年度は20年の節目に当たります。この間災害緊急時の要請に迅速に対応できるよう訓練を積み重ねてきましたが、現在の連絡体制を続けて行く上で最も重要なことは11ブロック長の役割です。協定の中身を十分理解され、非常時に対する社内防災体制の確立に一層努めていただくようお願い申し上げます。

また、四県支部協会とも各県と災害協定を結んでいる現状では、今後重複した出動要請が考えられます。協会員の皆様におかれましては、南海トラフ地震と言う本地域が抱えている現状を再認識し、要請時への連絡対応ができるよう引き続きご協力の程お願い申し上げます。



編集委員会報告

委員長 河本 光司

平成27年度の編集委員会は、以下の10名で運営してきました。

- 委員長：河本 光司(応用地質株)
 副委員長：成瀬 文宏(基礎地盤コンサルタンツ株)
 委員：片平 宏(明治コンサルタント株)
 委員：佐藤 威臣(国土防災技術株)
 委員：竹市 雅司(株東京ソイルリサーチ)
 委員：山里 剛史(株タイム技術サービス)
 委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント株)
 委員：川口 勝男(丸栄調査設計株)
 委員：勝眞 浩一(南海カツマ株)
 委員：小田 秀昭(株建設コンサルタントセンター)

本年度の編集委員会活動は以下の通りです。

- ①中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」63号の発行、配布先の検討、配布。64号の企画制作
 - ②中部地質調査業協会のホームページの維持管理更新、改良(HPワーキング担当)
 - ③全地連フォーラムへの参画、アンケート対応
- ※)ホームページワーキンググループの活動につきましては、別途活動報告として掲載しましたので、ここでは主に「土と岩」64号の企画内容について記載します。

●「土と岩」64号の編集経緯について

平成27年度は6回の委員会を開催し、64号の企画から外部執筆者への依頼、受領した全原稿の校閲、全体構成の検討を行い、発刊への準備を進めてきました。

●メイン特集のテーマと編集方針

今年の特集のメインテーマは、東北大震災以降、全国で活発化したしてきた火山活動に焦点を当て、地質技術をコア技術とする協会の技術啓発と読者の皆様の火山に対する知見の向上を目指して「火山」としました。

執筆は、中部圏の火山を対象に第一人者として活躍されている4名の先生方をお願いしました。内容は御嶽山、伊豆東部火山群の技術的知見をはじめとして、火山監視の問題、さらには噴火堆積物から想定される噴火のメカニズムなど、かなり多岐に亘っており、読者の皆様には大変参考になるものではと勝手ながら自負しているところで

す。
 今回お忙しい中、執筆をいただいた名古屋大学の山岡先生、熊谷先生、静岡大学の小山先生、元都立大学の町田先生には、改めて感謝申し上げる次第です。

●特別寄稿

特別寄稿は昨年からはじめた中部圏の大学の防災研究施設の紹介と濃尾平野の技術資料となる2編の投稿をいただきました。

その1として、今年は名古屋工業大学の高度防災工学センターを取り上げ、同校の檜尾准教授にご紹介記事をいただきました。読者の皆様が研究施設の内容等を把握され、これからの業務に役立てていただければ幸いです。

その2としては、日頃から濃尾平野の地盤問題を研究されている内園先生から濃尾平野の堆積環境に関わる研究成果の論文をいただきました。ぜひ、皆様の技術向上に役立つことを願っています。

●小特集

今回は10年ぶりに名古屋で開催された全地連技術フォーラム2015に関し、総括報告を全地連技術委員長岩崎様に、参加報告を中部土質試験協同組合の坪田様にそれぞれ執筆していただきました。このフォーラムの参加者は過去最高となり、我々の活動そのものの発展を垣間見えるものであり、ぜひご一読願います。なお、この特集では若手を中心に、優秀論文も掲載しています。

また、業界トピックスとして、全地連が総力を挙げて実施した横浜市のがけ地対策事業の内容もご紹介しました。我々が得意とする地質リスクを検討しながら、対策事業を展開した事例ですので、協会員の職域拡大に活用していただければ幸いです。

●その他の記事等について

平成28年2月に開催した国土交通省中部地方整備局との意見交換会の内容を掲載致しました。現状の発注環境や課題等がよくわかるようまとめましたので、協会員はご一読願います。

また、協会の活動報告は、常設委員会である総務、研修、広報、技術、防災、編集の各委員会報告と編集委員会に設けているホームページワーキングの活動報告をまとめました。この報告で、1年間の協会活動の内容をご理解願います。

最後になりますが、本誌の表紙は岐阜県にある活火山の焼岳を撮影しました。荒々しい姿を見ると人間の非力を感じますが、協会はテーマである火山という新たな職域開拓も目指すという意味も込めています。

今後とも皆様に興味深く愛読される機関誌づくりを目指してまいりますので、よろしく願います。

(文責:河本)

ホームページワーキング活動報告

<http://chubu-geo.org>

編集委員会・ホームページWG

宮尾 浩一

平成27年度のワーキングの構成

平成27年度のホームページワーキングは、以下の6名の委員を中心に、河本編集委員長、成瀬編集副委員長にも加わっていただき、活動を行ってきました。

- 委員：宮尾 浩一(応用地質株)
- 委員：米田 英治(川崎地質株)
- 委員：山本 幹登(東邦地水株)
- 委員：棚橋 昌平(応用地質株)
- 委員：津坂 喜彦(株アオイテック)
- 委員：長屋 浩輔(基礎地盤コンサルタンツ株)

平成27年度の活動の概要

平成27年度のホームページワーキングは、4月から精力的に議論し、活動を行ってきました。平成26年度にいただいたホームページ利用者アンケートの整理・分析に始まり、各会員会社の情報の更新、協会組織の変更、リンク切れになっていた箇所を更新等を行ってきました。これ以外にも、アンケート結果を踏まえてホームページの利便性の向上を図る活動を行ったほか、ホームページトップページへの技術フォーラム開催情報の掲載なども行いました。

新たなリンク付け

平成26年度の活動では、国土交通省ハザードマップポータルサイト、KASHIMIR 3D、SUKIYAKI 塾、名古屋大学 減災館などへのリンク付けを、各機関のサイト管理者様のご厚意で行いましたが、平成27年度の活動でも、新たなリンク付けを行うことができました。以下に、簡単に紹介します。

=地質図Navi=

産業技術総合研究所地質総合センターのホームページで利用できます。国内の様々な地質情報が閲覧できる高速地質図表示システムです。

=日本シームレス地質図=

これも、産業技術総合研究所地質総合センターのホームページで利用できます。日本全国に対して統一凡例を用いた地質図です。

=KuniJiban:国土地盤情報検索サイト=

このサイトでは、国土交通省の地盤情報を検索することができます。

=インフラメンテナンス情報ポータルサイト=

このサイトは、社会資本のメンテナンスに関する情報を扱っているサイトで、社会資本の点検状況が確認できます。

=長野県神城断層地震 災害調査報告書=

当協会のメンバーも参加した地盤工学会、土木学会との合同調査報告です。当協会の7名の方も執筆しています。

地質見学スポットの更新・追加

地質見学スポットコーナーはこれまでもありましたが、平成27年度では、できるだけ多くの方々に興味を持っていただくため、身近にある見学スポットの充実を図りました。具体的には、地質見学スポットコーナーでは、「博物館・資料館」、「日本ジオパーク」、「身近な歴史地震スポット」、「身近な地質スポット」について、位置とともに情報をご覧いただけるようにしました。



=博物館・資料館=

中部地区周辺の博物館、資料館を紹介しています。

> 地質見学スポット

博物館・資料館



中部地区周辺の博物館、資料館の紹介です。

=日本ジオパーク=

日本ジオパークネットワークに紹介されている中部地区周辺のジオパークを紹介しています。

日本ジオパーク



日本ジオパークネットワークで紹介されている中部地区周辺のジオパーク

=身近な歴史地震スポット=

愛知県各地に残る歴史地震・歴史災害に関係した碑や史跡などを毎月紹介している資料を、名古屋大学減災連携研究センター歴史地震研究プロジェクトよりいただき、紹介しています。

身近な歴史地震スポット



愛知県各地に残る歴史地震・歴史災害に関係した碑や史跡などを毎月紹介している資料を、名古屋大学 減災連携研究センター 歴史地震研究プロジェクトよりいただきました。これらの碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記載されているだけでなく、当時の人たちの思いも込められています。そうした先人たちの思いに触れ、災害への備えにつなげていただくと幸いです。

=身近な地質スポット=

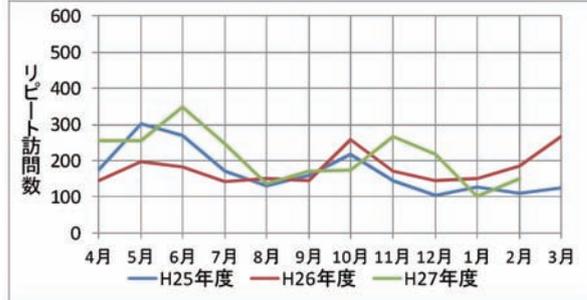
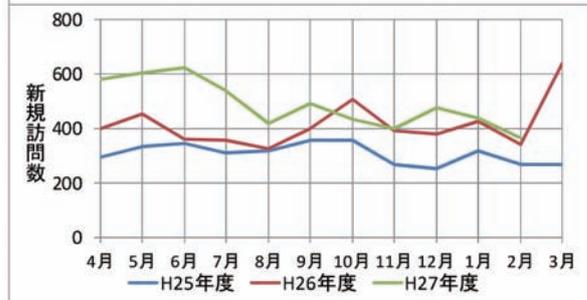
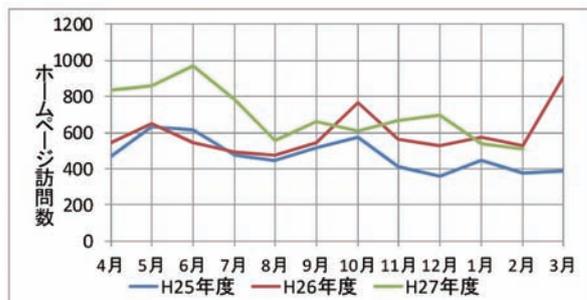
有志により集められた(足で稼いだ)、身近で地質について学べるスポットを紹介しています。スポット近くのラーメン店情報もあわせて紹介しています。



有志により集められた身近でちよとした地質について学べるスポットの紹介です。

協会ホームページ利用状況

平成27年度(平成28年2月末現在)のホームページの利用状況は下図の通りであり、ホームページ訪問数の合計が約7,700、新規訪問数の合計が約5,400、リピーター訪問数の合計が約2,300となっています。これを平成25年度の実績と比較すると、ホームページ訪問数で約1.4倍、新規訪問数で約1.5倍、リピーター訪問数で約1.1倍となっています。



ホームページ利用者アンケート

平成28年3月～4月に、昨年に引き続き、ホームページ利用の実態、利用者の皆様のご意見・要望等の把握を目的に、アンケートを実施しています。この結果は、平成28年度のホームページワーキングの活動の参考にさせていただきます。

ご利用・ご支援のお願い

平成28年度からは、皆様の様々な、ご意見、ご要望等をお寄せいただける仕組みとして、会員専用で、「ご意見・ご質問コーナー」を設置し、試験的な運用を開始しました。必要に応じてご利用をお願い申し上げます。

今後とも、関係者一同、より良いホームページになるよう努力してまいります。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。